

京都教区

*『京都教区高校生会冬の集い』について。

テーマ：幼子殉教者たちの死の意味を考える

～あなたはどう生きるのですか？あなたはどう死ぬのですか？～

日時：2021・12・28(火) 14:00～15:30 場所：カトリック河原町教会

申込不要 無料 当日現地集合

大和高田教会

*11月は死者の月です。

ミサ奉献には故人が信者であるにかかわらず捧げて頂けます。

霊名・お名前を記入しホールの追悼箱に入れて下さい。

*コロナ感染者は大幅な減少傾向にあり 主日のミサは11月から2地区合同です。

11月28日 8時30分～ A地区 + C地区 + D地区 + 求道者

※平日(木曜日)のミサは10時30分～。地区制限は無し。

※感染対策のマスク着用・検温・3密の回避・手指消毒は引き続き気を緩めることなく実施いたします。

※聖堂内は換気のため窓を開け放しています。

重ね着、ひざ掛けなど各自で防寒対策をしてください。

*2022年度改選役員選出について。候補者名は教会ホールに掲示しています。

投票日:11/7→A・B地区 11/21→B・C地区 11/28→A・C地区 8時からミサ開始まで。

全員、投票に参加して下さい。

*ウォークソン募金にご協力ください。

11月予定のウォークソンは今年もコロナ禍のため中止となりましたが、救援募金は継続します。ご協力をお願いいたします。教会ホールに専用封筒を備えております。

聖堂内の維持費ポストにお入れください。

*典礼部より。

部会を12月12日(日)9:30～小聖堂にて行います。部員の方は出席して下さい。

*12月12日(日)はミサが無い日ですが9時からワックス掛けを予定しています。

有志の方のご協力をお願いいたします。

*11月・12月の『聖書と典礼』『教区時報』などを渡り廊下のBOXに置いてあります。

ご都合のいいときに取りにお越しください。

*『船員司牧』のお手伝いの為、今年も12月に神戸港に入港する船員さんへクリスマスプレゼントとして帽子とマフラーを編んでいます。

又、ご自宅に男物の帽子、マフラーなどありましたら12月5日までに教会へご持参ください。
(国際協力委員・手芸クラブ)

なぜ待降節に終末の福音か

今日から待降節が始まります。典礼暦年も変わり、いわば教会の新年です。といっても何か特別なお祝いがあるわけではありません。クリスマスに向かう第一歩の主日です。

しかし、今日の福音朗読箇所は待降節というよりも、先々週の福音とよく似ており、終末を表す内容となっています。司祭としては一週おいて同じ内容の福音朗読だと説教に困ります。幸い、共同宣教司牧で違う教会に行くのでその点は大丈夫ですが、このプリントで全く同じことを書くわけにはいきません。そこで、今回は終末について語られたこの福音箇所を待降節に読まれる意味を考えることから始めたいと思います。

待降節は字の通り、降誕を待つ、クリスマスを準備する期間です。教会では飾りつけやミサの準備をしますがそれだけが目的ではありません。教会の典礼暦は世界の始まりから終わりまでを一年で記念するので、主の降誕の前の待降節は旧約時代を表しています。それなのになぜ終末の出来事が朗読されるのでしょうか。

救い主の降誕を待つ、といっても現実の今はすでにイエスの誕生は過去のものになっています。現在のわたしたちが待っている主は、先週記念した通り再臨のキリストです。つまり、待降節は旧約の民に心を合わせて救い主の誕生を待つことを追体験するとともに、来るべき再臨の主を待つ準備をするという二重の意味があるわけです。それで今日の福音はイエスの終末予告の箇所が朗読されるというわけです。

ところで、今日の福音も先々週と同様に、世の終わりが天変地異の後に来る、という恐ろしさを感じさせる表現となっています。イエスは弟子たちやわたしたちを恐れさせようとされたのでしょうか。しかし、「人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗ってくるのを、人々は見ると言われているように、喜びの希望を約束してくださっています。イエス自身も受難の苦しみののちに復活の栄光を受けられました。弟子たちも、迫害と殉教という苦しみののちに主の栄光に包まれています。わたしたちも、この世の苦しみ、死に対する不安はありますが、その先にイエスが約束された天の栄光へと招かれるのです。

今日の福音の最後に、イエスは「目を覚まして祈りなさい」と言われます。イエスはこの言葉をたびたび語られています。もちろん、睡眠もとらずに祈り続けるという意味ではありません。大切なことは、主がわたしたちのために生まれてくださったこと、そして主が来られることを忘れず、神の国の実現のために祈るということではないでしょうか。

キリストとの出会いは世の終わりだけではありません。日常生活における小さな出会いがあります。その積み重ねによって、世界は神の国へと導かれます。それは、コロナ下にある今の日常においても同じです。ですから、「目を覚まして」いるとは、わたしたちが毎日の生活の中で、イエスとの出会いを待ち続けることだといえるでしょう。待降節は馬小屋よりも日常生活の中にイエスを探しに行くときでもあるのです。 (柳本神父)